

新石下橋完成後の期待と不安！

遠藤正信 議員

○新石下橋架け替え工事の進捗状況と今後の推進計画について

質問 新石下橋架け替え工事は街路事業としてスタート。平成13年から用地買収、整地等いろいろあり現在橋脚を1基残すだけで、概要が見えてきた。そこで将来的な展望にたつた時、橋からのアクセス道路が非常に狭く、岡田小学校の通学路などは大型車の通行により危険である。工事の進捗状況と今後の周辺道路等年次推進計画及び工事内容について尋ねる。

答弁 (都市建設部長) 平成13年度に事業認可を受けた県施行の街路事業で、平成17年度から工事着手。平成20年度末には仮橋の供用を開始。平成21年度は橋台工事2基並びに橋梁上部工の桁製作工事を発注。平成22年5月までに橋脚が完成予定。一日も早い供用開始に向け県に要望していきたい。周辺道路整備については西側の右岸側、向石下地



新石下橋

区の要望があった生活道路整備も10月11月に地元説明会を実施。橋脚工事が終わるまでに終了予定。また右岸側の堤防沿いには所々に待避所を設け通行をスムーズにしたい。工事は国交省で12月あたりから工事に入るといった状況である。

〈その他の質問事項〉

○高齢化対策について

○少子化対策について

渋滞の緩和を目指して！

中村安雄 議員

○水海道有料道路の無料化と今後の市の対応について

質問 今回念願がかなって水海道有料道路が1月から3ヶ月間無料の実験が行われる。平成8年にこの橋が作られた当時は9900台の目標を定めたが、現実には平均2400台程度の通行量である。美妻橋が約一万台。豊水橋が約一万6600台で計画の24%しか利用されていない。今回の実験によって、大体通行量は3倍に増え、朝晩の渋滞の緩和に役立つことを期待している。無料と有料の差がいかに大きいかは通行量によって判断できる。そこで①無料化実施前の市としてのPRについて尋ねる。その後通行量が極端に増加した後の措置について今回無料化に使われた予算は約4500万円、一日50万円である。

答弁 (都市建設部長) 県はホームページ、県広報誌、茨城放送などでのPRのほか料金所・美妻橋周辺に看板を設置。市は広報紙のほか国道354号及び県道谷和原筑西線沿線に立て看板を設置。周辺市町村も広報

題にも影響する。財政難とはいえ何とか予算化できないか。

②今後の市としての取り組みについて尋ねる。(再質問) 再び2000円になり2400台に戻ると環境問



水海道有料道路

紙に記事を掲載する。②県の試算によると現在の1日2700台から約3倍になると予想される。無料化には利用料金の補填が原則のため、市の財政事情等を考慮しながら今後も県・県道路公社に要望していく。(再答弁) (市長) 有料橋の無料化をこれからも根強く要望していく。西幹線あるいは事業の見直し等研究を重ねて良い方向にもってきたい。

